

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602728		
法人名	有限会社 ケイテック		
事業所名	グループホーム「仲間館・絆」		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町内野322番地1 (電話) 0942-51-5552		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年5月17日

【情報提供票より】(平成22年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤10人, 非常勤5人, 常勤換算	13.7人

(2) 建物概要

建物構造	耐火鉄骨 造り 2階建ての 1階～2階部分		
------	--------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (3月10日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	59歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺崎医院・藤吉内科・毛利歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀県との県境にも近く、筑後川に接する豊かな田園風景の中に、グループホーム「仲間館・絆」は位置している。城島町は銘酒の産地として酒蔵も多く、ホームの外観もそれをイメージして建てられており、同法人のデイサービス「仲間館・ありがとう」が隣接している。ホーム玄関から道路側には遮るものが無く、「お茶でもいかがですか?どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。」とメッセージボードが置かれており、地域に開かれた事業所としての方向性を感じることができる。「仲間館・絆」では、前回評価以降、運営推進会議の定期開催や記録の整備等に積極的に取り組み、確実に成果をあげており、開設して5年目を迎える中で、地域密着型サービスとしての質の向上に向けた働きかけを誠実にやっている。また、この事業所の特徴として、ほとんどの入居者の方々が参加する2泊3日の旅行を毎年実施しており、日々の暮らしの中では、地域資源の活用も視野に入れながら、一人ひとりの社会生活の継続に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、運営推進会議の定期開催に向けた積極的な取り組みがあり、また各書類の整備も確実に充実してきている。継続しての課題もあるが、サービスの向上に向けた積極的な取り組みが確認できる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成には職員全員で取り組んでおり、日々のケアの再確認の機会として積極的に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	前回評価での課題であった運営推進会議の定期開催に向けた積極的な取り組みが行われており、会議の場で具体的な日時(奇数月・第3金曜日)を決めて、年間を通じた実施計画をたてている。職員の参加が多い点も特徴であり、意義のある会議となるよう取り組みが始まっている。家族・自治会長・民生委員・市議員・市担当者・地域包括支援センター職員等の出席があり、また消防署からの参加を得て、災害対策等について話をしてもらったこともある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	苦情箱の設置、及びホームの相談窓口・関係機関の相談窓口を案内している。家族が意見や要望を表出しやすい関係作りに努めており、実際に直接言うってもらうことも多い。意見等の内容を職員に周知し、迅速な対応と運営への反映に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	玄関には、「お茶でもいかがですか?どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。」と看板を掲げ、地域の方々の気軽な来訪を呼びかけている。自治会に加入しており、地域行事(城島祭り・もちつき大会等)や地域活動(草むしり等)に、入居者と共に積極的に参加している。またホームでの秋祭りは歌手を招く等、趣向が凝らされており、地域住民へ向けて認知症に関する啓発活動も行っている。日常的な挨拶や野菜の差し入れ等、地域とのつながりを大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「心こそ大切なれ、地域の一員として助けられたり、助けたりの輪を広めよう」と独自の理念を掲げている。入居者や家族との関わりだけでなく、地域社会の中でその人らしく暮らし続けるには、何よりも心と心とのふれあいが第一であるとの強い思いから作られた理念である。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	玄関ホールの応接室には、毛筆で書かれた理念が掲示しており、名刺にも大きく記されている。毎日朝礼時に全員で理念の唱和を行っており、毎月の会議やミーティング時には繰り返し再確認している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	玄関には、「お茶でもいかがですか？どうぞ、お気軽にお立ち寄り下さい。」と看板を掲げ、地域の方々の気軽な来訪を呼びかけている。自治会に加入しており、地域行事(城島祭り・もちつき大会等)や地域活動(草むしり等)に、入居者と共に積極的に参加している。ホームでの秋祭りは歌手を招く等、趣向が凝らされており、また地域住民へ向けて認知症に関する啓発活動も行っている。日常的な挨拶や野菜の差し入れ等、地域とのつながりを大切にしている。		毎週1回、地域の高齢者の方々がコミュニケーションボランティアとして来訪し、「水曜日」と名づけられている。レクリエーションや機能訓練を共に楽しんでいる。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成には職員全員で取り組んでおり、日々のケアの再確認の機会として積極的に活用している。評価の意義の理解と活用も含めて、毎月のミーティングにおいて課題を検討する等、全職員でサービスの向上に取り組もうとする姿勢が伝わり、日々啓発に努めている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	前回評価での課題であった運営推進会議の定期開催に向けた積極的な取り組みが行われており、会議の場で具体的な日時(奇数月・第3金曜日)を決めて、年間を通じた実施計画をたてている。職員の参加が多い点も特徴であり、意義のある会議となるよう取り組みが始まっている。家族・自治会長・民生委員・市議員・市担当者・地域包括支援センター職員等の出席があり、また消防署からの参加を得て、災害対策等についての話をしてもらったこともある。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	ホームの運営や、困難事例・不明な点等について、市担当者へ相談したり助言を得ている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、権利擁護に関する制度について外部研修に参加し、伝達研修を行っている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要となった場合や問い合わせがあった場合に情報提供・支援を行っており、今後も継続して職員全員の知識を深めながら、活用への支援を行っていく意向である。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、担当職員による手書きの報告書を作成しており、日々の様子や健康状態等を報告している。家族来訪時には、写真により暮らしの状況を伝えたり、健康状態等を報告している。職員の異動・離職の際の家族への報告について、より積極的な対応が求められる。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	苦情箱の設置、及びホームの相談窓口・関係機関の相談窓口を案内している。家族が意見や要望を表出しやすい関係作りに努めており、実際に直接言ってもらうことも多い。意見等の内容を職員に周知し、迅速な対応と運営への反映に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者・職員の馴染みの関係に配慮し、異動については最小限となるよう努めている。離職が多い時期もあったため、ゆとりある人員の確保に努めている。		少しずつ重度化していく中で、その人らしい普通の暮らしの継続に向けた支援の実践に努めている。馴染みの関係の重要性については十分に認識しており、今後も継続して働きやすい職場環境作りへの積極的な取り組みを、職員育成・サービスの向上へとつなげて欲しい。
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。個々の職員の得意分野を活かせるよう配慮し、また個別に話をする機会を設け、ストレスケアにも配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	事業者協議会などが主催する外部研修へ参加し、事業所内で伝達講習を行うなどにより、人権教育・啓発活動を行っている。高齢者虐待防止や身体拘束について、外部研修資料等をもとにして、職員会議の場で話し合いを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間計画に基づき職員の研修の機会を作っている。外部研修については参加者を募り、勤務の配慮を行っている。また職員全員へ研修の機会が公平になるよう配慮している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	事業者協議会部会に参加し、交流の機会としている。また地域のグループホームとの交流により、行事参加や見学等の交流の機会となっている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前に自宅や病院等を訪問し、本人や家族との面談の中で、思いや要望等の把握に努め、またなじみの関係作りに努めている。必要に応じて体験利用の機会を設けながら、本人・家族の不安を軽減し、安心してサービスの利用開始ができるようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者各々が主役になれるような場面(得意な漬物を漬ける、得意な料理を作るなど)を作り、達成感を共有しながら、入居者から学んだり、支えあう関係を大切にしている。日々のふれあいの中で、入居者の方々からエネルギーをもらうことも多いと話す職員の言葉があった。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	日々のかかわりの中で、言葉や表情、顔色、動作等から、入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努めており、困難な場合は、家族にも協力を得ながら本人本位に検討している。		アセスメントにはADLに関する記述が多く、管理者・ベテラン職員が把握している生活暦や趣味等の記載を重ねていくことにより、全職員で把握・共有し、個別性ある介護計画作成や、日々の暮らしの活性化への支援へとつなげて欲しい。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意見や希望を踏まえ、職員の気づきや主治医の意見等を参考にしながら、介護計画を作成している。前回評価以降、記録等が確実に充実してきており、介護計画作成・見直しにつなげるよう取り組んでいる。今後のアセスメントの充実を、更に個別・具体性のある計画作成へとつなげて欲しい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しを行っている。また状況の変化に応じて、本人・家族・医療関係者等の意見を集約し、カンファレンスを実施して現状に即した介護計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族の状況に応じて、通院や買い物、個別の外出に柔軟に対応している。また毎年、2泊3日の宿泊旅行を企画・実施しており、殆どの入居者が参加している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居時に、本人・家族の意向を尊重した、かかりつけ医を決めている。また複数の医療機関との連携により、適切な医療活用となるよう支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に向けた指針を示し、家族の同意を得ている。家族・医療関係者との連携の中で看取りに寄り添った経験もあり、状況の変化に応じて話し合いを重ねながら、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりの尊厳や人格を損ねることがないように、声かけや対応には常に注意を払っている。記録等、個人情報の取り扱いについても十分に配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ホームとしての1日の基本的な流れはあるが、入居者の生活歴やこれまでの暮らし方を大切に、無理強いすることはなく希望にそって支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	一人ひとりの力を発揮してもらい、調理の下ごしらえや味付け、盛り付けや後片付け等を職員と一緒にやっている。また、ホームの畑で旬の野菜の収穫なども一緒に行っている。誕生日には外食を楽しんだり、ホットプレートでお好み焼きやおやつ作り(ふなやき・かんざらし等)を楽しんでおり、「食」を楽しむ機会が多い。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	1階・2階と交互の入浴日を設定し、それぞれ週3回の入浴予定を組んでいる。順番や時間等、個々の入居者の希望や状況にあわせて対応するよう努めており、予定日以外でも要望があれば柔軟に対応するよう努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの生活暦や得意分野を活かして、洗濯物を干したり取り入れたり、食材の買い物・調理準備や掃除など、入居者自身のその日の判断で行ってもらい、生活の活性化につなげている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近隣への散歩や、外食、買い物など、本人の希望により外出の機会を大切に支援している。また毎年宿泊旅行(沖縄・宮崎・鹿児島等)を企画しており、殆どの入居者が参加している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入口にはチャイムを設置しているが、日中は施錠は行っていない。職員は、施錠することの弊害を理解しており、行動傾向の把握や目配り・気配りを行いながら、外出のサインを見逃さないようにし、気分転換を行うなどの配慮を行っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を得ながら、昼夜を想定した防災訓練・避難訓練を定期的の実施しており、個別の避難方法についても検討されている。災害マニュアルを整備し、訓練後には職員による記録・レポートが作成され、課題を明確にしながら有効な訓練となるよう積極的に取り組んでいる。スプリンクラーも設置済みとなっており、運営推進会議には消防署からの出席も得ている。継続して地域への協力を働きかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士の資格を持つ職員がおり、栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。チェック表を用いて入居者各自の食量、水分摂取量が把握・記録されている。水分を取りにくい場合には、清涼飲料水等、味を変えて摂取を促している。一人ひとりに応じた調理方法や見守りを行い、また口腔ケアを充実させ、できるだけ自分で食事が維持できるよう支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム「仲間館・絆」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	広いリビングには明るい自然光が差し込み、ソファーやベッドが置かれており、くつろげる場所が確保されている。食卓となるテーブルや椅子もゆったりと配置されており、車椅子でも移動がしやすい。玄関からラウンジにつながり、懐かしいポスター・電話機・家具等が配置されており、レトロな雰囲気の空間作りとなっている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	自宅から、これまでに使い慣れた家具や大切な物を持ってきてもらい、安心して過ごせるように配慮している。また持ち込みが少ない場合には、職員等により本人が落ち着いて生活ができるような工夫がされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			